

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
AM14Z001		医療倫理学 (MedicalEthics)					導入教育科目 社会・経済		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態					
必修	1	1	医学部医学科 先進医療科学 科	前期	月3	日本語				単独					
担当教員	氏名 今井 浩光														
	E-mail imaih@oita-u.ac.jp 内線 5600														
授業の概要	医療における倫理を学ぶ基礎として、倫理の概念、倫理学の歴史と代表的な倫理理論の考え方を学習する。それを元に、社会における医療の意味、医療に求められる倫理、望ましい医療者患者関係などについても、学びを深める。														
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	倫理学の歴史と代表的な倫理理論を説明できる。								○			○			
目標2	社会における医療の意味について説明できる。											○			
目標3	医の倫理、望ましい医療者患者関係について説明できる。											○	○		
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									2			7	1		
授業の内容															
1		倫理学の基礎、倫理的判断のあり方													
2		生命の価値、尊厳、社会と個人のあり方													
3		規範倫理学1(徳の倫理学)													
4		規範倫理学2(帰結主義)													
5		規範倫理学3(義務論)													
6		権利について(権利論)													
7		法と倫理													
8		患者の権利													
9		医の倫理の歴史													
10		プロフェッショナリズムと医療者の責務													
11		医療者患者関係とインフォームド・コンセント													
12		ケアの倫理													
13		動画コンテンツ視聴													
14															
15															
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認						工夫その他の	動画コンテンツを利用する。							
	B:意見の表現・交換		○												
	C:応用志向		を												
	D:知識の活用・創造		作成する。少人数でのグループディスカッションにて多様な考え方があること、多面的な考察の重要性を学ぶ												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		新聞、テレビ、インターネットなどのメディアを通じて、倫理的な課題を含む社会の出来事に常に関心を持つ(15h)												
	事後学修		関心を持った事例について、授業で学習した知識、考え方をを用いて、考察する(15h)												
	想定時間合計		30												
教科書	資料を配布する														
参考書	指定しない														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験		90%	○	○	○							
	レポート		10%		○								
注意事項													
備考													
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の 実務経験	附属病院の医師												
実務経験を いかした教育内容	医療現場で起こる倫理的ジレンマを講義の題材とする。												